

が1名づつあったことは特筆すべき事項である。

## ◆ 考察

今回の症例群は、コントロールされた母集団ではないため、問題についての頻度や割合を論ずる意義を持たないが、実際のDV事例における精神医学的特徴について考察する。

今回、暴力的に振舞った者については、必ずしも精神医学的評価の対象とはし得なかったために、踏みこんだ考察は困難だが、大人には社交性・対人関係技能の問題、家庭内暴力という形での表現をした子どもには境界型人格障害、アスペルガー障害、強迫性障害という、いずれも社会性・対人技能・衝動統制に問題の生じやすい状態像が示された。

さらに、DVを受けた家族の側にも、ADHD、アスペルガー症候群が複数含まれていた。これらは、家庭内で暴力的行為が生じやすい基盤に、対人関係技能と衝動統制の病理の問題がありうることを示唆していると考えられる。

タンタムは、成人のアスペルガー症候群の診断基準を表3のようにあげているが、成長の過程で家庭内の衝突が多いこと、一部には他者に対して予期せぬ暴力を振るう結果となる共感性の欠如について言及している<sup>1)</sup>。家庭内という閉鎖的な空間における様々な行為の習慣化は、長年の生活の中で修正しにくく、これは通常の上社会生活には許されない暴力的行為にもあてはまる可能性がある。特に、家族構成員に対人関係技能の問題を持つ者がいた場合、関係性は形骸化しやすいものと考えられた。

表3) 成人のアスペルガー症候群の診断基準(文献1)

### 成人期において

- ・ 次のいずれかを伴う、非言語的な表現力の欠如
  - (1) 表情・身振り・音声の韻律・姿勢などの特異性
  - (2) 社会的に重要なシグナルが理解できない
  - (3) 以上の両方
- ・ 狭く個人的な性格をもつ、変わった「独特な」興味。この独特な興味は、内容が特異的であるか、その追求が強迫的のいずれか、またはその両方。独特の興味は、物の収集や、事実の記憶を含むことが多い。
- ・ 社会的に認められた慣習、とくに通常は暗黙に了承されている慣習に従って振舞うことの困難。
- ・ 発言の語用論的側面の異常。
- ・ 親しい仲間関係の欠如。すべてではないが、仲間にはねつけられる近づき方をした結果としてことが多い。
- ・ 不器用性の印象

### 小児期において

- ・ 前記と同様の症候、または自閉症の症候
- ・ 小児期の生育歴が得られない場合は、症候を小児期早期からの精神障害に帰することはできない

さらに、発達障害圏の子どもが虐待等の被害の対象になりやすいことは、その養育の困難さや、親への心理的負担の大きさからもこれまで指摘されてきているが、DVへの巻き込まれについても、同様の観点と、さらに子どもの側の心理的脆弱性による症状の顕在化について検討される必要性があるものと考えられた。

### 【文献】

- 1) ディグビー・タンタム：成人期のアスペルガー症候群。ウタ・フリス編著、富田真紀訳；自閉症とアスペルガー症候群，261-316，東京書籍，1996

表1) 家庭内の暴力的な出来事について治療を求めた家族

家族	暴力行為をした者	その者の精神状態	クライアント	トラウマティックな体験	時期	現実対応・状況	診断、精神科的状态像	治療的介入	精神状態の転帰	社会適応
A	父親	表面的社交性、形骸的	母親 4歳女兒	暴力を受ける 性的いたづら	結婚後～5年 4歳～5歳(推定)	離婚調停中 別居	BPD Borderline child	カウンセリング 遊戯療法	情緒不安定 情緒不安定	やや不適応 適応
B	父親	BPD、AI依存症	母親 7歳男児	暴れる、非社会的言動を受ける 叩かれる、非社会的言動を目標	結婚後～10年 幼児期～13歳	離婚 情緒障害学級	神経症 AS、AD、ひきこもり	親ガイダンス 薬物療法、遊戯療法	軽度うつ状態 うつ、不安定	適応 不適応
C	父親	器質性精神障害	母親 7歳男児 9歳女児 12歳女児	暴力を受ける 母の被害を目標 母の被害を目標 母の被害を目標	結婚後～14年 0歳～6歳 0歳～8歳 0歳～11歳	離婚 法的保護 法的保護 法的保護	不安神経症 PTSD AD AD	薬物療法、家族療法 遊戯療法、家族療法 家族療法 家族療法	軽快傾向 軽快傾向 軽快傾向 軽快傾向	適応 適応 適応 適応
D	父親	無口、非社交的	母親 8歳男児 9歳女児	器物破壊、児への暴力を目標 暴力を受ける 暴れるのを目標	結婚後～10年 幼児期～7歳 幼児期～8歳	離婚 情緒障害学級 —	抑うつ状態 AS、AD 抑うつ状態、ひきこもり	親ガイダンス 精神療法 精神療法	不変 軽快傾向 動揺性	やや適応 適応 不適応
E	父親	AI依存症	母親 9歳男児	激しい夫婦喧嘩 ひどく叩かれる	数年以上 幼児期～8歳	死別 児相、学校と連携	— ADHD	親ガイダンス 薬物療法	— 軽快	適応 適応
F	内縁の夫	不明	(母親) 12歳女児	暴力、暴力的性行為を受ける 叩かれる、母の被害を目標	同居の1年間 9歳～10歳	別居 施設入所	情緒不安定、AI依存? PTSD、CD、軽度MR	— 入院治療	不変 軽快傾向	やや適応 やや不適応
G	長男	BPD	母親 15歳男児(弟)	家庭内暴力に巻き込まれる 暴力の目標、巻き込まれ	数年間 11歳～15歳	別居 別居	ADHD AS、AD、自殺企図	カウンセリング 精神療法、薬物療法	軽快 軽快傾向	適応 やや適応
H	長男	schizoidの特性持つAS	母親 父親	暴力を受ける、巻き込まれ —	数年間 —	一時別居 息子と同居継続	不安神経症 AS	薬物療法 親ガイダンス	動揺性 不変	やや適応 適応
I	長女	強迫性障害	母親 父親	強迫への巻き込み、暴力 —	7～8年 —	長女の治療、別居 母に代わり娘に対応	不安神経症 —	薬物療法 親ガイダンス	改善傾向 —	やや適応 適応

BPD:境界性人格障害, AI:アルコール, AS:アスペルガー一症候群, AD:適応障害, PTSD:外傷後ストレス障害, ADHD:注意欠陥/多動性障害, CD:行為障害, MR:精神遅滞  
社会適応:不適応(ひきこもり、不登校で家庭内でも不安定), やや不適応(家庭内で落ち着いているが社会参加なし), やや適応(家庭内で役割を担い、社会参加がある程度している), 適応(生活の殆どで社会参加できている)